③	風中聴•	ふうちゅうにきき
	黄鶯囀•	こうおうてんず
	風前舞•	ふうぜんにまう
	香風暖•	こうふうあたたかに
	故郷思•	こきょうをおもう
	衣香起•	いこうおこり
	春堤白•	しゅんていしろく
	塵沙少•	じんさにまれに
	桜花謝	おうかちり
	白英謝	はくえいしゃす

風に乗って聞こえる		
鶯が啼く		
風に舞う		
暖かい香風が吹く		
故郷を思う		
香が衣服に染みつく		
春の堤が白い		
砂ぼこりはない		
桜の花が散る		
白い花が散る		

④	歳月•侵	さいげつおかす
	桜色•侵	おうしょくおかす
	酒•暈•深	しゅうんふかし
	感•慨•深	かんがいふかし
	徹•暁•吟	てつぎょうぎんず
	風雨•吟	ふううぎんず
	小•鳥•吟	しょうちょうぎんず
	簫笛•吟	しょうてきぎんず
	酒•盞•斟	しゅせんくむ
	名所尋	めいしょをたずね

歳月が過ぎる	
桜の色にそまる	
酒を飲んで顔が赤々となる	
感慨深い	
朝まで歌を歌う	
風雨がうたうかのようである	
小鳥がさえずる	
笛を吹く	
酒を飲む	
（花の）名所を訪ねる	